

第 61 号
2010. 1

北海道 米麦改良

麦作



平成21年産小麦の総括



平成21年度北海道産小麦流通実態調査報告



平成21年度全国麦作共励会の結果について



北海道産小麦流通実態調査研修者一同 兵庫県手延素麺協同組合にて(兵庫県たつの市)

会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。

<http://www.beibaku.net/>

社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

農産物検査の信頼性確保
を目指して

JA グループ北海道は一丸となって
農産物検査の信頼性確保に努めています

も く じ

麦作	平成21年産小麦の総括.....	1
	平成21年度北海道産小麦流通実態調査報告.....	6
	平成21年度全国麦作共励会の結果について.....	12

麦 作

平成21年産小麦の総括

十勝農業試験場 技術普及部 主任普及指導員 松原昭美
 北海道農政部 食の安全推進局 技術普及課 主査 久保勝照
 上川農業試験場 技術普及部 主査 高松聡史
 北見農業試験場 技術普及部 主査 沢口敦史

農林水産省大臣官房統計部が11月30日に公表した21年産小麦の収量は平年比72%となり(表1)、秋まき小麦は平成11年に次ぐ低い値で、春まき小麦は「春よ恋」が主力品種となった15年以降最低の成績となった(表2)。6月中旬から8月上旬の断続した降雨と日照不足が大きな影響を及ぼした結果だが、生育の経過を振り返りながら今後の課題について検討する。

表1 平成21年産小麦の作付面積と収穫量 (北海道)

区分	作付面積 (ha)	10a収量 (kg/10a)	前年対比 (%)	平年収量 (kg/10a)	平年対比 (%)
秋まき小麦	107,700	354	74	489	72
春まき小麦	8,510	215	66	300	72

注) 農林水産省大臣官房統計部発表 (21年11月30日)。

平年収量は過去7年の豊凶年を除く5年平均。

表2 小麦の年次別10a収量の推移

(kg)

年次	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
秋まき小麦	327	383	405	480	508	501	479	437	510	478	354
春まき小麦	125	91	128	118	269	306	297	306	323	326	215

1 各地域における平成21年産小麦の生育

秋まき小麦は、播種期が雨の影響で平年に比べ3日の遅れとなった。播種後に乾燥した天候が続いたため、越冬前の草丈・茎数は平年を下回った。4月は26日に太平洋側で大雪となった所もあったが、気温は高く、幼穂形成期は平年より2日早まり、茎数も平年並みとなった。5月から6月上旬も高温多照に経過し、出穂期は3日早くなった。7月中旬以降の低温・多雨・寡照の影響により生育が遅れ、全道平均の成熟期は2日の遅れとなった(表3)。

春まき小麦は、播種期が大幅に早く、幼穂形成期も5日早かったが、6月中旬の気温が低かったため、生育は徐々に平年に近づいた。

7月中下旬から8月上旬の気温が低く雨が多いため、成熟期は平年に比べ1日の遅れとなった(表4)。以下に地域別の生育状況を示す。

(1) 道央

(農政部 技術普及課 主査 久保勝照)

(ア) 秋まき小麦

道央(石狩・空知・後志・胆振)における秋まき小麦の生育は、起生期以降出穂期まで平年よりも7日~2日早く進んだが、6月の低温・日照不足、7月の多雨・日照不足の影響で成熟期は平年並みとなった。また、茎数は平年より多く推移し、穂数も平年より多かった(穂数の平年対比、4支庁平均107%)。

開花期の降雨により赤かび病の発生が多

表3 平成21年産秋まき小麦の生育状況

支庁	播種期 (月日)	起生期 (月日)	幼穂形成期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	茎数(本/㎡)		穂数 (本/㎡)
						(10.15)	(6.15)	
石狩	9.20(早1)	4.5(早5)	5.1(早3)	6.3(早3)	7.20(早1)	451(104)	867(122)	804(118)
空知	9.20(遅2)	4.1(早7)	4.29(早4)	6.2(早3)	7.17(早1)	357(73)	755(106)	705(105)
上川	9.17(遅9)	4.12(早4)	5.5(早2)	6.6(早3)	7.21(遅1)	655(73)	731(102)	647(99)
網走	9.23(遅2)	4.4(早9)	5.1(早6)	6.8(早2)	7.30(遅3)	327(97)	880(110)	807(110)
十勝	9.24(遅2)	4.5(早2)	5.3(0)	6.7(早3)	7.29(遅2)	258(83)	781(96)	721(96)
全道	9.22(遅3)	4.4(早5)	5.2(早2)	6.6(早3)	7.26(遅2)	343(83)	806(103)	742(103)

注1) 各生育季節の()内の数値は平年対比の日数。

2) 茎数、穂数は北海道農政部発表の作況値。()内の数値は平年対比の百分率(%)を示す。

表4 平成21年産春まき小麦の生育状況

支庁	播種期 (月日)	止葉期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	茎数(本/㎡)	穂数 (本/㎡)
					(6.15)	
上川	4.10(早8)	6.12(早2)	6.22(早1)	8.5(0)	771(110)	540(107)
網走	4.11(早9)	6.12(早3)	6.24(早1)	8.13(遅1)	901(113)	678(115)
空知	11.12(早10)	5.29(早8)	6.8(早3)	7.29(遅2)	824(101)	756(102)
全道		6.7(早3)	6.18(早2)	8.6(遅1)	858(108)	687(109)

注1) 各生育季節の()内の数値は平年対比の日数。

2) 茎数、穂数は北海道農政部発表の作況値。()内の数値は平年対比の百分率(%)を示す。

3) 空知の数値は初冬まき栽培。

かった。石狩、空知、胆振においては、登熟期間(6~7月)の低温・多雨・日照不足により細粒・未熟粒が目立ち、収穫期の降雨により穂発芽の発生が多く、収量・品質ともに平年を大きく下回った。そんななかで後志は穂発芽の発生は極めて少なく、収量は平年並みを確保し、品質も全量1等麦となった。

(イ) 春まき小麦(初冬まき栽培)

道央(石狩・空知)における春まき小麦初冬まき栽培の生育は、融雪後の出芽本数はやや多く、その後の茎数も多く推移した。草丈は平年よりも長く推移した。やや過繁茂の傾向であった。穂数もやや多くなった。このため一部では倒伏が発生した。

幼穂形成期~出穂期の生育は、平年よりも4~6日早く進んだが、6~7月の低温・多雨・日照不足により成熟期は3日遅れた。天候不順の影響を受け、登熟はやや不良となり細麦傾向であった。また、赤かび病・穂発芽

の発生もあり、収量と品質に影響し、大きく減収した。

(2) 十勝

(十勝農試技術普及部 主任普及指導員 松原昭美)

(ア) 秋まき小麦

平年より2日早い6月10日に出穂揃となったが、翌11日から22日まで連続して低温、日照不足となり、開花・稔実に大きく影響した。稈長が平年より長く、6月23日の大雨で一部の地域で倒伏が発生し、その後の断続的な降雨により各地で増加し、最終的には倒伏面積率が6.1%と多かった。成熟期は平年より2日遅い7月29日であった。

7月は降水量が多く、中旬以降は低温・日照不足も重なり、登熟が不良で細麦が多く、製品収量は平年を大きく下回った。

「きたほなみ」の収量が「ホクシン」を大きく上回り、品質も勝った。病害では赤かび病の発生がやや多かった。

(3) 北見

(北見農試技術普及部 主査 沢口敦史)

(ア) 秋まき小麦

融雪期が早く、その後の平均気温が高かったことから起生期～幼形期は5～6日早かった。5月中旬～6月上旬の気温はほぼ平年並で止葉期～出穂期は1～2日の進みとなった。6月中旬の低温、少照、多雨で徒長し、6月下旬～7月上旬は、高温であったが強風や豪雨があり、倒伏が発生した。7月中下旬の日照不足、低温により成熟期は平年より3日遅かった。茎数、穂数は平年より1割程度多かった。収穫期の8月上旬は好天に恵まれ、成熟が早かった場所以外は穂発芽の被害から回避できた。収量はほぼ平年並であり、倒伏の多い地域では減収した。製品率は87%とやや低く、品質は99%一等麦となった。

(イ) 春まき小麦

融雪が早く播種期、出芽期は平年より8～9日早かった。5月下旬～6月中旬の低温により生育は遅れ出穂期は平年並となり、草丈も徒長した。7月中下旬の日照不足、低温により成熟期は平年より1日遅れた。日照不足による登熟不良のため、茎数、穂数は多いものの千粒重が小さく、収量は平年を大きく下回り(平年比88)、網走沿海中部で減収が大きかった。品質は製品率が72.5%と低く、87%一等麦であった。

(4) 上川・留萌

(上川農試技術普及部 主査 高松 聡)

(ア) 秋まき小麦

平成20年9月の播種期がやや遅れた上に出芽に時間がかかり越冬前の生育量は平年よりやや少なかったが、融雪が早く5月が高温に経過したため生育が進み、穂数は平年並みであった。5月から6月にかけて適度に降雨があったため草丈が平年を上回り、稈長はやや長くなった。出穂期は平年より5日早くなったが、6月中旬以降降雨が多く、7月は低温に経過したため成熟期は1日遅れとなった。

上川地域(旭川市)では、7月の断続した

降雨で倒伏が発生した。7月16日から23日にかけて平均気温が低下し、収穫期の連続した降雨により穂発芽が発生した。

留萌地域(羽幌町)では、比較的降雨量が少なく、低温に経過した期間も短いことから品質の低下は少なかった。

(イ) 春まき小麦

融雪が早かったため播種が早く終了し出芽が3日早かったが、播種期が遅い圃場は4月6半旬から5月2半旬にかけて少雨に経過したことから出芽が遅れ、その遅れは成熟期まで縮まらなかった。5月中旬より適度に降雨があったため草丈・茎数は平年を上回り、稈長は10cm程度長く、穂数は7%程度多くなった。7月8日の降雨以降倒伏が発生した。8月1～3半旬にかけて好天に恵まれたため収穫は平年並みに終了した。

2 生産実績

(1) 1等麦比率

秋まき小麦、春まき小麦ともに倒伏や登熟後半の多雨による穂発芽と日照不足の影響で製品歩留は低く、収量は平年を大幅に下回り(表1)、1等麦比率も前年から大きく低下した(表5)。

(2) 品質ランク区分

秋まき小麦でAランクの割合が大幅に低下した(表6)。特に4つの品質評価項目すべての基準を満たしたS区分の割合が大きく低下している。春まき小麦は成熟期以降天候が順調だったため品質は前年並みを確保できた。

(3) 品質評価項目別頻度

4つの評価項目の割合を比較すると、「ホクシン」は容積重で40%が基準より軽く、タンパクで51%、灰分は43%が基準より高い値となり、フォーリングナンバーは7%が基準以下になった。それに対して「きたほなみ」は容積重、灰分、フォーリングナンバーはほとんどが基準を満たしていたが、タンパクについては37%が基準値を超えていた。アミロ

耐性の低い「キタノカオリ」は7月中旬以降の低温の影響をうけフォーリングナンバーはほとんどが基準を下回った。「春よ恋」は容積重とタンパクでそれぞれ約6%が基準を満たせず、フォーリングナンバーは10%が基準以下だった。

表5 平成21年産麦類検査実績

(道農政事務所食料部)

品種名	1等麦比率 (%)		
	21年産	20年産	19年産
ホクシン	53.2	82.6	88.0
きたほなみ	76.6	—	—
ホロシリ	39.4	72.4	89.0
タクネコムギ	50.5	65.6	71.8
きたもえ	1.2	53.3	79.3
キタノカオリ	6.7	87.1	88.9
秋まき計	53.5	82.1	87.8
春よ恋	58.3	77.8	55.7
ハルユタカ	51.8	80.1	64.7
はるきらり	88.9	—	—
春まき計	58.1	78.1	57.9
普通小麦計	53.7	81.9	86.3

注) 21年産については、10月31日の速報値

3 今後の課題

今年の小麦の収量品質は断続的な降雨と寡照に大きく影響された。圃場の透排水性が不良で防除や収穫の適期に作業が行えない場合も見受けられた。明暗渠などの整備と併せて、心土破碎の施行、有機物の計画的投入を行い、表面排水を良好にして、根張りの良い麦作りを行うことが重要であることが再認識された。

本年の品質低下は、7月の連続した降雨と寡照が主要因であるが、倒伏が多く被害を助長した地域もみられる。倒伏の主要因は眼紋病の発生と茎数過多であるため、適正な輪作を行い適期・適量播種を推進していく必要がある。

「きたほなみ」は「ホクシン」に比べ30%以上増収した事例が多く、多収性が改めて実感できた。1等麦比率も「ホクシン」に勝り、品質評価もAランクが大半で「ホクシン」より優れることが認められた。しかし品質評価基準4項目のうち、検査数量の37%で「タンパク」が基準値を超えていた。また、「ホクシン」より倒伏が多い地域もあった。上川地域では製品歩留が70%程度と低かった。播種期が早いにもかかわらず播種量が多く、茎

表6 平成21年産小麦の品質評価ランク区分

(平成21年11月30日現在)

品種名	Aランク (%)			Bランク (%)	Cランク (%)	Dランク (%)
	S	A	合計			
ホクシン	22.1(50.4)	43.0(44.3)	65.1(94.8)	14.2(4.0)	15.0(1.2)	5.7(0.0)
きたほなみ	63.2(—)	36.1(—)	99.3(—)	0.7(—)		
ホロシリ	0.0(83.1)	100(16.9)	100(100)			
きたもえ	20.8(57.6)	58.7(38.5)	79.5(96.1)	20.5(1.4)		
日本めん用計	25.9(50.7)	42.6(44.1)	68.5(94.8)	12.9(4.0)	13.5(1.2)	5.1(0.0)
タクネコムギ	0.0(20.4)	100(79.2)	100(99.6)	0.0(0.4)		
醸造用計	0.0(20.5)	100(79.3)	100(99.7)	0.0(0.5)		
春よ恋	86.0(85.1)	10.6(14.7)	96.6(99.1)	3.3(0.1)	0.1(0.0)	
ハルユタカ	75.3(95.7)	24.7(3.1)	100(98.8)	0.0(0.9)	0.0(0.3)	
キタノカオリ	3.9(92.5)	64.6(0.0)	68.5(92.5)	0.0(7.5)	31.5(0.1)	
はるきらり	100.(—)		100(—)			
パン・中華めん用計	73.9(87.9)	19.0(10.3)	92.9(98.1)	2.6(1.8)	4.5(0.1)	

注) ()内は平成20年産数値

Sは4つの品質項目すべてを満たした麦、Aは3項目を満たした麦。

数・穂数が過剰になり、細麦化して品質が低下した場面がみうけられる。茎数過多を避け、止葉期追肥で粒の充実をはかる栽培が必要である。

「きたほなみ」では起生期茎数が2,000本/m²を超えるような栽培を避けるため、越冬前茎数を道東では800~900本/m²、道央・道

北では1,000本/m²程度を目標に、適期・適量播種に努めなければならない。施肥は起生期+止葉期の追肥を基本としているが、「ホクシン」で高タンパクになる恐れがある圃場では止葉期追肥を行わないか、追肥量を調整することも必要になる。

麦 作

平成21年度北海道産小麦流通実態調査報告

(調査日：平成21年11月26日～27日)

本会では、麦作生産の指導に携わる皆さんに、麦の流通・加工に関する理解を深めていただき、北海道産小麦の品質向上とその安定供給に向けた取り組みに生かしていただくことを目的に、平成2年より北海道産小麦の流通実態調査を実施してまいりました。

本年度は、農業試験場や農業改良普及センターをはじめ関係団体・機関から、22名の参加をいただきました。そして、兵庫県の神戸市とたつの市の2カ所で調査・研修を実施しました。

研修は、製粉工場と製麺組合で、製粉工場では原料と製粉工程を見学させていただき、製麺組合では手延べ素麺の加工の見学と研修を行いました。2カ所において、参加者と研修先の皆さんとの積極的な意見交換が行われ、道産小麦「ホクシン」「春よ恋」の評価と新品種「きたほなみ」・「はるきらり」を含めた道産小麦に対する期待について有意義な情報を得ることができ、充実した研修となりました。

参加者を代表して、空知農業改良普及センター空知南西部支所の片山専門普及指導員、北見農業試験場麦類科の足利研究職員に報告の作成をお願いしました。ここに、その内容を掲載させていただきます。

平成21年11月26日 (株)増田製粉所：兵庫県神戸市

空知農業改良普及センター空知南西部支所 専門普及指導員 片山正寿

1 会社の概要

増田製粉は、創業が明治39年、100年を超える歴史のある製粉会社である。現在は国内のベスト10に入る大きさである。本社・工場を神戸市に構え、下記の4部門を経営の柱としている。

- ・製粉部門
- ・畜産部門
- ・食品部門
- ・その他の部門

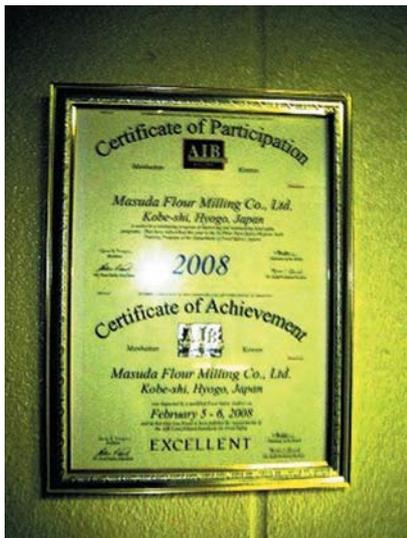
また、増田製粉では「素材を生かした小麦粉作り」に取り組んでおり製菓、製パン、製麺に関するユーザーへ満足してもらえる製品



会社全景



取組みについての説明



AIBの認証



衛生と品質のチェック

の供給をしている。「伝統は守ることではなく継続するもの。良いものは残し、その時代にあったものを追求する。」ことを理念としているとのことだった。

2 徹底した製品管理

創業当時から着実に工場の拡大を図ってきたが、施設が古くなり老朽化が問題となっていた。そんな時神戸の震災に見舞われたことが大きな転機となったようである。

改築を余儀なくされ、それに当たって、衛生的な管理を維持するためにデッドスペースをなくすような機材の配置レイアウトにしたり、工場内の柱、骨格に埃のなどのたまりやすい鋼材はなるべく使わないなど「清掃しやすい」「汚れない」空間作りに配慮してきた。



ニーズに応じた多彩なラインナップ

個人衛生管理、製品の品質管理も徹底し、頻繁に衛生チェックや品質のチェックをおこなってきた。2008年にAIBの認証を受け、現在はその基準に沿って工場の管理を行なっている。

在庫の管理にも配慮がされているようで保管に関わる管理費用や手間を考えると原料の在庫を持たない方が良いのだろうが、年次が変わるとともに使用する小麦が変わると粉の品質に影響が出てユーザー側から「違う粉をよこしたのではないか？」などのクレームがくるらしくある程度の在庫を抱えながら品質を一定に保つべく製粉を行なっている。

3 安心・安全がキーワード

以前は、輸入麦のみの使用だった。国産麦は、輸入麦との抱き合わせで購入・利用する程度で、むしろ国産麦は、「やっかいもの」だったようである。しかし近年、食品の偽装問題や輸入食品の食中毒問題が続き安心・安全なものへの要望が非常に高まってきたのを契機に、最近では国産麦の利用を増やしてきた。製粉は、数十種の国産麦をたんぱく、アミロ、水分などの成分をチェックし、ブレンドをおこなっている。製粉の際には、原料の水分や加水時間に細心の注意をはらっているとのことだった。製品は、菓子用や製麺用

など各方面の要望に応じて多彩なラインナップを揃えている。

4 道産小麦に期待されていること

研修中に情報交換の場があったので小麦の品質として取り決められている基準（アミロ、たんぱく、灰分、容積重）について話をうかがうことができた。

製粉工場部門の担当者は、製粉歩留や製粉効率を考えると千粒重が重いこと、水分が低いことや灰分が低いことが重要であるとしていた。一方、できあがった製品を扱う部門の

担当者は、アミロやたんぱくが重要とのことだった。製粉会社の中の部門でもいろいろ意見が分かれるように見えるが、どの項目が一番と優先順位をつけることは難しく、それぞれ項目の基準値をクリアするべく取り組まなければいけないと感じた。また、本研修をとおしてH21年産の品質について製粉業者の方々から逆に質問が出るなど北海道産の評価が非常に高いことを感じた。年次によって品質が変わることが大きな問題であり、一定の品質を維持していくことの重要性を再認識した。今後も関係機関との連携を深め高品質安定生産に向けた技術支援に取り組んでいかなければならないと感じた。

◆ AIB (American Institute of Baking) について

AIB フードセーフティ監査システムのこと

アメリカのパン研究所で食品の安全性に関する規制（FDA法）を強化するために、製



船での荷揚げに使っていた水路で最近まで使っていたとのこと



製粉機



製品ライン



篩や行程ごとに分類された粉

粉・製パン業界からの要請により業界主導のシステムとして開始された。監査は、実際に食品が製造されている製造現場と食品保管現

場の検査を重要視し、現場検査に80%、書類検査に20%のウエイトで実施されている。

11月27日 兵庫県手延素麺協同組合：兵庫県たつの市

北見農業試験場 作物研究部 麦類科 研究職員 足利奈奈

(1) 兵庫県手延素麺協同組合の概要

兵庫県手延素麺協同組合は、兵庫県たつの市に位置し、1887年に創立され120年以上の歴史があり、揖保乃糸等の登録商標をもつ組合である。研修にあたっては、業務部の松本氏を中心に概要を説明いただいた（写真1）。

(2) 手延素麺産業

この地域で手延素麺産業が発達した背景には、揖保川に代表される豊かな水流系が素麺作りに適していたこと、河川域の肥沃な大地で育つ小麦という原料があったこと、冬場に乾燥しやすい瀬戸内性気候が素麺の乾燥に適する事などがあった。

第二次世界大戦時には生産が非常に落ち込んだものの、戦後の品質安定化や産地拡大、広告宣伝事業などの様々な努力と取り組みにより、“揖保乃糸”ブランドが確立され、販売の促進、品質保証に結びついた結果、現在は戦前を大きく上回る20,000トン以上の生産

量となり、“揖保乃糸”の知名度は非常に高い。

(3) 商品開発と小麦

昭和37年以降、外麦を含めた小麦の利用が進められてきたが、近年、様々な商品開発が行われる中で道産小麦を用いた商品も開発されている。開発の背景には、国産麦を使用した商品の開発が望まれる中で、地元産小麦（播州小麦）では品質・生産量のバラツキが問題となった時に、道産小麦「ハルユタカ」との出会いがあったとのこと。それから約5年間の研究・準備期間を経て、道産小麦「ホクシン」、「ハルユタカ」をブレンドした粉を用いた「縶（よ）りつむぎ」という素麺が開発された。「縶りつむぎ」の販売量は平成14年から平成21年までの7年間で約3倍となっており、主力商品の1つとなっている。近年の食の安全・安心への関心の高まりによる国産ブームも出荷量が増えたことへの追い風となっている。しかし、国産麦を扱う上では苦勞もあり、外国産麦に比べて熟成が早く、だれやすい、つながりが良くないなどの傾向が見られる事から、試作やブレンドを変えての対応、また製造工程における食塩量や熟成の調整といった生地に合わせて作業が必要になっている。このような工夫と努力があって「縶りつむぎ」は生産されている。

この他、手延中華麺の開発、120周年記念商品として兵庫県産小麦（「シロガネコムギ」、「ふくほのか」）100%使用の素麺など、品質



写真1 研修の様子

や素材にこだわった様々な商品開発が行われている。

(4) 揖保乃糸資料館「そうめんの里」

手延素麺の歴史や製造行程に加え、美味しい素麺を楽しむことができるのが揖保乃糸資料館である。ここでは手延素麺製造作業の実演見学と道産小麦使用「縊りつむぎ」の試食を行った。手延素麺の製造作業では、熟成を終えた麺紐を職人さんがぐいぐいとのぼし、あっという間に2mにも及ぶ細くて長い素麺にする作業が見学出来た(写真2)。また、道産小麦を用いた「縊りつむぎ」を暖かくして「にゅうめん」で頂いた(写真3)。素麺は冷たくして食べる機会が多いが、寒い季節にはぴったりの体が温まるレシピであり、今後、我が家のメニューにも加えたい。

(5) 意見交換

・研修参加者からの質問

Q：組合の生産体系はどのようになっているのか？

A：生産組合員が共同仕入れした材料を使って製造し、組合に出荷し、組合で販売するという体系をとっている。

Q：外国産麦は何を使用しているのか？

A：ASWが多く、その他、アメリカ産なども含まれている。



写真2 素麺を引き延ばす作業の様子

Q：素麺の販売時期はいつ頃になるのか？

A：3月～8月に9割程度を販売しているが、通年商品とすべく、レシピの提案やメーカーとのコラボレーションなどの取り組みを行っている。

Q：国内産ブームの背景は何が大きいと考えられるか？

A：食の安全・安心に対する消費者意識の高まりから、国産を使用したものへのニーズがある。また、「縊りつむぎ」は“道産”というのも魅力の1つとなっている。

Q：昔行われていた国産麦を用いた素麺作りでの苦労はどんな点か？

A：技術、設備、の点も今以上の苦労があったと思われる、また、年次によっても品質が異なるであろう事から、塩の量を調節したり手間をかけることで対応していたと思われる。

・兵庫県手延素麺協同組合からの質問

Q：「ホクシン」に置き換わって使うことを検討している新品種「きたほなみ」とはどんな特性をもった小麦か？

A：収量性、障害病害耐性などの農業特性、製粉性や製めん適性も「ホクシン」より優れた品種である。

(6) まとめ

今回の研修を通して、国産麦としてはロットが大きく、生産や品質面で安定性のある道産小麦への需要を再認識した。また一方では、



写真3 道産小麦を用いた素麺「縊りつむぎ」の試食

実需者側には国産麦を使う上での苦労があることも感じられた。現状では実需者側からの詳細なニーズに対応するのは難しいと思われるものの、今後、品種育成を進める上で、より障害・病害耐性が優れ、高品質な小麦の作出を目指し、更なる生産、品質の安定化に貢

献したいと感じた。

最後に、今回の小麦流通実態調査を主催して頂いた米麦改良協会、ならびに研修を快く受け入れて下さった兵庫県手延素麺協同組合に心よりお礼を申し上げます。

平成21年度全国麦作共励会の結果について

第30回（平成21年度）北海道麦作共励会審査委員会において、「畑地における秋播小麦の個人の部」で最優秀賞の高橋和男さん（津別町）、「畑地における秋播小麦の集団の部」で最優秀賞の報徳麦作組合（美幌町）の二組を全国麦作共励会に北海道代表として推薦いたしました。

本年は、北海道全域で、開花期以降に日照不足と雨の多い悪天候に見舞われ、特に収穫期前後の長雨により雨害を受け、大きく減収する結果となりました。その悪条件のなかにもかかわらず、高橋さんも報徳麦作組合も立派な麦作りを達成されました。

高橋さんは、土作り、適正管理に加え、大豆間作を取り込んだ4年輪作を行っており、作物全般に高品質・高収量をあげておられます。本年の「きたほなみ」の収量は850kg/10aでした。近年人参の露地野菜も取り入れ、収益性も高く、津別町では模範的農業者として活躍しておられます。

報徳麦作組合は、10戸の農家、平均32.5haと作付面積は地域にあって大きく、畑作を中心に野菜を取り入れた複合経営を行っています。小麦は1等・10俵の高品質・高収量をあげており、土作り、適正管理、輪作体系がきちんと行われています。GPS（現在位置を調べる測位システムで、これを利用し作物や土壌の状態を把握する）による収穫、施肥、リールマシン、ラジコンヘリ、光学センサー等を用いた畑作管理を行い、コスト低減に向け積極的に取り組んでいます。

12月22日の全国麦作共励会中央審査委員会において、高橋さん・報徳麦作組合はともに見事「農林水産大臣賞」を受賞されました。二組が同時に農林水産大臣賞を受賞したということは初めての快挙ですが、北海道の麦作りのレベルの高さが改めて理解されたと考えます。悪い天候条件にもかかわらず立派な成績を上げることができた北海道の麦作りの底力に対し、改めて敬意を表したいと思います。

平成21年度 全国麦作共励会受賞者名簿

I. 農家の部

賞名	氏名	住 所
農林水産大臣賞	高橋 和男	北海道網走郡津別町字豊永 355
全国米麦改良協会会長賞	斉田 藤尚	福岡県朝倉郡筑前町東小田 1879
全国農業協同組合中央会長賞	伊藤 一志	三重県桑名市長島町松蔭175
全国農業協同組合中央会長賞	越智 優行	愛媛県西条市水見乙782
全国農業協同組合連合会長賞	戸塚 敏男	埼玉県本庄市滝瀬181
日本農業新聞会長賞	東田 郁三	石川県小松市拓栄町392

II. 集団の部

賞名	集 団 名	所 在 地
農林水産大臣賞	報徳麦作組合 代表者 影山 秀樹	北海道網走郡美幌町字報徳 第1
全国米麦改良協会会長賞	有限会社 葛原アグリ 代表者 吉用 繁則	大分県宇佐市大字葛原479
全国農業協同組合中央会長賞	札野地域営農組合 代表者 服部 貢	岐阜県海津市海津町札野38
全国農業協同組合連合会長賞	東農業生産組合 代表者 川村 忠夫	岩手県紫波郡矢巾町大字東 徳田10-66
日本農業新聞会長賞	吉田上生産組合 代表者 鈴鹿 清重	愛媛県西条市小松町大頭甲 1042-1

良質米麦の出荷目標



一等米 100%
整粒歩合80%以上確保
精米蛋白質含有率6.8%以下
仕上がり水分14.5～15.0%
入れ目1%以上確保
全量種子更新



一等麦 100%
低アミロ麦皆無
DON暫定基準値1.1ppm
以下でできるだけ低いこと
赤かび粒混入限度 0.0%
異臭麦皆無
十分な入れ目の確保
全量種子更新

農産物検査事業の方針

公平、公正、迅速に行う。
必要な技術的能力の維持・向上に努める。
客観性・公平性から他部門からの影響排除。
制度の適正な運営に寄与する。



発行所

社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>